

大阪府保育士会だより

ほほえみ

平成18年12月1日

第74号

大阪府社会福祉協議会

保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54

TEL 06-6762-9001

千葉で50周年記念大会

未来へのとびら

～新しい「目標」めざし～

「全国保育士」
研究大会

第40回全国保育士会研究大会が、11月10日～11日の2日間、千葉市の幕張メッセで開催されました。昭和31年7月に、「子どもたちの真の幸福を守るために、保母は手をつなぎ、たちあがろう!」の呼びかけの下に、結成され50周年の節目の記念大会になりました。

「親や保育者は命について子どもにどう伝えれば良いのか」

記念講演要旨

養老 孟司 東京大学名誉教授

脳の働きは五感で入力したものを脳で計算し運動として出力する。この繰り返りで「意識」が生まれます。脳で計算する能力が未熟な子どもにとって、体を動かすことは脳の発達には欠かせないのです。



ユーモアをまじえて
養老先生

動物には絶対音感があり音の違いがわかります。感覚の世界では同じものが一つもなく、赤ちゃんも動物に近い鋭い感覚を持っています。しかし、人間はことばで一つの表現にまとめてしまい、せつかくの鋭い感覚の子どもの世界を鈍らせてしまっています。

「やってみたいとわからない」ということが否定される今、何かを試してみようという本気の「勇氣」を子どもたちに伝えていくことが大切です。管理社会の中、自然という逃げ場もなく、息詰まった子どもたちの感情は壊れはじめも深刻化しているのではないかと。もっと子どもたちの目を自然の世界に向けることで本来の豊かな感覚を取り戻され、問題も解決されるのではないかと熱く語られました。一人ひとりが違っていていい、何でも一緒の感覚でなくてもいいと再認識でき、そのことをもって子どもたちには教えていかなければならないと思いました。

地域に広がる子育て仲間

「母親同士、手をつなごう!」

14年からスタートし現在40組の親子が週1回遊びに来ています。40組を1年間通して、集団遊びや製作、ままごなどをして遊ぶ中で子ども同士お母さん同士が親しくなることを目指しています。当初は、親子教室とらえられ幼稚園に入る前の準備!と言われたこともありました。

そこで15年度から申し込みの際に少しお話をうかがい、今は育児に悩みや不安をかかえている方や、兄弟や近所に友達がない子どもを中心に来てもらっています。1年間通すことにより親子さんたちで子育てサークルをいくつか作っておられます。私たちも時々そちらへ行き、教材をお貸ししたり、アドバイスしたりしています。



子育て支援シリーズ⑪
守口市 錦 保育園



さるなら見守ろう
②親が参加しやすい内容にしよう
③気づかせる努力をしよう
今後いろいろな問題点が生じると思いますが、常に保育士は大きな気持ちを持って親子に関わることが大切だと感じています。

田中旬子

専門性を高めるために

主任保育士研修会

主任保育士研修会が、8月1日、4日、9日の3日間大阪社会福祉指導センターで72人が出席して開催されました。



▼第一日目

「これからの保育所に求められるもの」

講師 大阪府健康福祉部 児童家庭室 飯尾慎太郎元室長

大阪府では、子育てのしんどさを社会全体が分かち合うことで、安心し喜びを持って子育てができる社会を目指しています。地域力がなくなってきた今、子育て家庭の支援や地域交流事業を、民間保育園全てで取り組むと共に、子どもを保育する時、虐待の視点を持ち、地域の子育て支援に今以上に力を貸して欲しいと締めくくられました。

(虐待通知受付)
土日と夕方5時45分から翌朝6時まで専用電話072-295-8737

「これからの主任保育士の専門性と保育士の倫理」

講師 大阪府保育士会 武内 茂子会長

国全体の保育行政が大きく揺らぐ中、主任保育士と

して取り組むべき主なことは次のようなことです。

保育士が困った時フォローし、対人対話能力を持つ子どもと保護者の保育を指導する・自己研鑽に努める・就学前教育をしていることを社会にアピールする・親子間の潤滑的役割を果たす・倫理綱領を保育園に掲げ専門職の責務を社会にアピールすると共に、子どもの育ちをさらにしっかり見つけて下さいと熱弁されました。

▼第二日目

「現代の家庭をとりまく状況、その支援について」

講師 中部学院大学 寺見 陽子教授

核家族、少子化が進む現



実技演習をされる寺見陽子先生

代社会において、保育士や専門機関による家族援助は必要不可欠なことです。悩みを抱える親に対して、私たち保育士は、悩みの経験は大切なことだと思えるように援助しなければなりません。親の気持ちを受け入れ、相手の本音の部分をとらえてどう接していいのかわかることで、一人ひとりの処方箋がわかり、相手も自分も育つ共育ちが実現すると話されました。

▼第三日目

「保育所における社会福祉援助技術について」

講師 大阪市立大学 山縣 文治教授

はじめに、援助技術について、ロールプレイを交えて説明する中で、子育て支援をする時に、親近感をもつために名前を覚えることが大切なポイントであることなどをアドバイスしていただきました。

次に「こんな主任保育士

講演される山縣文治先生



「はいらない」というテーマでグループ討議を行いました。客観的に捉え、自己評価することが自分自身の今の行動の気づきとなり、見直しの重要さを再認識した研修となりました。

課題を探って

保育士研修会



9月11日に、大阪社会福祉指導センターにて保育士研修会が開かれました。始めに、大阪府保育士会の武内茂子会長が開会の挨拶をされました。10月から認定こども園の制度が始まるにあたって、これまで保育園が抱えてきた問題と、これから目指すべき方向性と、保護者にとって利用しやすい制度が見直され、選択肢が広がった今、私たち保育園側の姿勢を再度見直す良い機会になったと熱弁を振るわれました。

次に、南大阪ブロックの保育士による「わらべうた遊び」の発表が行われました。聞いたことのない言葉や節をなぜか懐かしく感じ、古きよき時代の雰囲気に会場が包まれました。続いて、仏教大学社会福祉学科の丸山美知子教授による「保育士の保護者対応について」の講演が行われました。



講演される丸山美知子先生

「わらべうた遊び」の発表が行われ、聞いたことのない言葉や節をなぜか懐かしく感じ、古きよき時代の雰囲気に会場が包まれました。続いて、仏教大学社会福祉学科の丸山美知子教授による「保育士の保護者対応について」の講演が行われました。あわせることが出来ました。今回の研修を活かし、移りゆく現代に、より良い保育の場を提供していきたいと強く心に思いました。

最近、対応が難しい子どもが増加すると共に、難しい

あけほの保育園 阪田 幸江

評価決定 25の保育園

大阪府社協の福祉サービ
ス第三者評価センターにお
いて児童福祉分野の評価決
定に関わらせていただいで
おります。今回は、その立
場から、これまでの一年を
振り返りつつ、保育所の第
三者評価について、私なり
の考えを述べさせていただきます。



(大阪府立大学人間社会学部
社会福祉学科 関川 芳孝 教授)

福祉サービス第三者評価
センターは11月末段階で25
か所の保育園の評価決定を
行いました。評価決定の一
部は、第三者評価システム
推進会議大阪のホームページ
でみるができます。

保育士が主役

サービズ評価は、監査と違います。保育士が主役とな
るのです。しかも、保育の質を保育士集団のチームワー
クにより引き上げていくプロセスが大切と考えます。
こうしたプロセスのなかで、主任保育士のリーダーシッ
プが鍛えられ、一人ひとりの保育士が第三者である評価
者に自らの専門性を説明する言語をもてるようになるか
らです。

また、評価結果により、日々の保育に課題を発見され
た保育園におきましては、引き続き保育の質の向上に取
り組んでください。保育士皆さんの努力において、
PDCAのサイクルを回し続けることで、大阪の保育の
質が一層引き上げられることを願っております。

評価決定の過程においても、
調査者の先生方の説明を受
けておりますと、評価を受
けていただいた一つひとつ
の保育園において、受審ま
での準備に主任保育士を始
め多くの保育士さんたちに
大変ご苦労いただいでいる
ことが伝わってきます。な
かでも、保育の基本に関す
る追加基準の評価結果がほ
ぼ「a」という評価結果を
とられた保育園におかれま
しては、保育士全員が力を
合わせ随分と頑張ったこと
でしょう。評価機関コメン
トでは、こうした保育士の
皆さん方のご苦勞に敬意を
払い、可能な限り「誉める」
ことをモットーとしてしま
した。

住む街きれいに

心も拾う
ゴミ拾い

泉南市
ココアンジュ新家



平成10年から2か月に1
回、4・5歳児が保育園の
ある地域を美しくしましよ

うとゴミ拾いに出かけてい
ます。出会う人たちに大き
な声で「おはようございま
す」のあいさつもかかしま
せん。
この活動を通して、地域
の方とのふれあいのなかで
出会った方から「ごころう
さん」と声をかけて頂き、
お礼を言ってもらった喜び、
ゴミを拾うときれいになる
ことの喜びを感じている子
どもたちです。



地域とともに ふれあいた切に



思いやり大切に

=迎えたり
訪ねたり=

河内長野市
大典保育園



当園では2つの地域交流
事業を行っています。その
ひとつは、月3回開催して
いる「なかよしひろば」。
地域の親子を園に迎え、家
庭では味わえない遊びを体
験したり、時には園行事に
も園児と一緒に参加し楽し
んでもらっています。
二つ目は、在園児と近隣
の老人通所施設との交流行
事です。散歩の途中立ち寄っ
たり、クッキングのおすそ
分けをしたり日常の交流を



大切にしています。その中
から、子どもたちの心に優
しい思いやりの心が育まれ
ればと願っています。

たのしい保育活動

育てたおイモ

心もおなかもホツカホカ

3歳から5歳児の長袖スモック・長ズボン・長グツ隊87人は、9月13日(水)、園長が運転するマイクロボスに1クラスずつ乗り込み、サツマイモ掘りに出かけました。



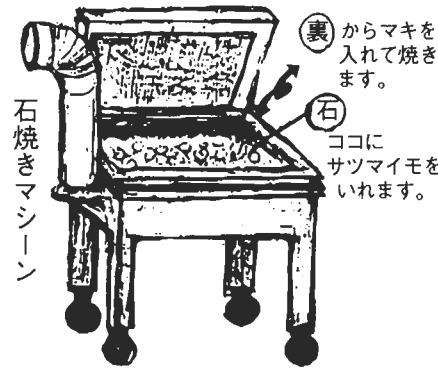
薩摩芋子ちゃん

次第にコツをつかむと、それれぞれに掘った芋をかかげ

サツマイモを子どもたちが掘り、それを石焼きマシーンで焼いて皆で楽しく食べる。

心も体もおなかもホカホカ楽しい一日となりました。

竹城台東保育園
谷口 明子



石焼きマシーン

全園児分のお土産と焼イモパーティー用の芋を掘ってくるという指令を受け、シヤモジ片手に根元を一生懸命掘っていきま

す。早朝に小雨がパラつき掘りやすそうに見えましたが、深く掘ることが難しく、

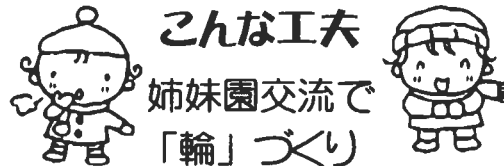
9月21日(木)が焼イモパーティー。晴天に恵まれました。

園庭にシートを敷き、石焼きマシーン(園長作)を囲んで、園庭開放で来てくれた15組の親子と一緒に、サツ

マイモの精・薩摩芋子ちゃんと手遊びをしたり、歌をうたったりした後、小さい子どもから順にホカホカの焼イモを食べました。

丹精こめて育てた

保育あんな工夫 こんな工夫 姉妹園交流で「輪」づくり



福さつき園が、公設民営化を受けて16年度から2か園になりました。

さつき保育園は池田市の中心にあり、園児は市内のあちこちから通園するのに対し、新しい「はたの保育

園」は箕面市と道を挟んで隣接、山の麓にあり、同一校区の園児が通園しています。さつき保育園とはたの保育園の間は子どもで足で一時間前後かかります。

保育内容はほぼ同じにしていますが、地域の環境・施設内の環境による特色を

両園の子どもたちが体験できるように交流を持っています。

さつき保育園は老朽改築の際、遊戯ホールの音響・照明を考え、生ライブを楽しめるようにしています。

「まなび・ゆとり事業」として海外を含め、グレードの高いプレーヤーを招いて演奏を楽しんでいます。ジャンルもわらべ歌・童謡・クラシック・ジャズ・民族音楽に至るまでさまざまな音や楽器に触れる機会を設けています。

はたの保育園の園庭では、カリン・ザクロ・キンカン・サクランボ・ビワ・ヒメリンゴが季節ごと、たくさん実をつけます。小さなスパー

スですが、さつまいも・大根・玉葱などを畑で育て、花壇には季節の花やブチトマト・キュウリ・ナスなどを育てています。これらの環境を生かして、生ライブには毎回はたの保育園の5歳児がさつき保育園へ行って、ライブを楽しみます。

またイモ掘りや大根抜きはさつき保育園の5歳児がはたの保育園へ行って収穫を

たの保育園へ行って収穫を楽しみます。年度初めには中間地点の公園で4・5歳児の顔合わせも行います。

後はお互いの保育園へ遊びに行きます。このように両方の保育園を行き来することで、どちらの特色も楽しむことができ、また両園とも自分たちの保育園であることを、子どもも、職員も意識し、大きな輪となっています。

さつき保育園
鶴飼真理子



編集後記



全国保育士会が組織結成50周年を迎え「暮張メッセ」において、研究大会が盛大に行われました。

この半世紀にわたり保育が支えられ、ご貢献を頂いた先輩諸先生方に対し、大きな感謝の気持ちでいっぱい。これからの保育激動時代を生きる、次世代を担う子どもたちのために、私たち保育士が力を出し合い、素晴らしい未来作りに貢献したいものです。本年度より、「認定子ども園」

も施行され、どうなることやら……。

いじめ問題、虐待問題と、気になることがいっぱいあります。

でも、私たちのまわりにはいつも明るい子どもたちの笑顔があります。この笑顔に支えられ、子どもたちの成長を見守り続けたいのです。